

指導行政のポイント

路線変更でなく“説明変更”

菱村 幸彦

前回、字数の関係で、意を尽くせなかったので、もう一度、学習指導要領の一部改訂を取り上げる。

progressivismとessentialism

今回の指導要領の一部改訂は、文科省の路線変更とは考えない。しかし、新指導要領に関する説明がりに変更があったことは否めない。つまり、プログレッシヴィズムにアクセントを置いた説明から、エッセンシャルイズムにアクセントを置いた説明に変更した、というわけだ。

このことをもう少し詳しく説明しよう。カリキュラムには、プログレッシヴィズム(progressivism)とエッセンシャルイズム(essentialism)の二つの流れがある。

プログレッシヴィズムとは、デューイの教育思想に拠るもので、児童中心の教育を唱え、児童の生活経験を重視し、問題解決学習を推進する教育思想をいう。また、エッセンシャルイズムとは、読み・書き・計算や歴史・地理・理科の基礎・基本を教えることの重要性を説く教育思想をいう。

プログレッシヴィズムとエッセンシャルイズムは、戦後の指導要領に一貫して流れているけれど、時代によって、そのウエイトの置き方に強弱がある。

戦後の新教育は、プログレッシヴィズムに拠る生活経験中心のカリキュラムで始まった。が、学力低下が露呈し、昭和30年代からエッセンシャルイズムに基づく系統学習中心のカリキュラムに転換した。その後、昭和40年代の現代化カリキュラムを経て、昭和50年代には、詰め込み教育批判のなかで、プログレッシヴィズムの再評価が始まる。その流れが平成に続き、プログレッシヴィズムに根ざす生活科や総合的学習が導入された。

しかし、平成10年の指導要領改訂で、教育内容が大幅に精選されたのを契機として、プログレッシ

ヴィズムの色彩の強い「ゆとり教育」に危惧を抱いたエッセンシャルリストが巻き返しに出たのが学力低下論争というわけである。

エッセンシャルイズムからの説明

では、平成10年の新指導要領は、エッセンシャルリストが批判するようにプログレッシヴィズムのカリキュラムなのか。

新指導要領の総則は、「自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない」(第1の1)と定めている。

この項目をみれば明らかなように、新指導要領は、生活体験に基づく問題解決学習と系統学習による基礎・基本の定着の両者をもとに重視している。つまり、プログレッシヴィズムとエッセンシャルイズムがバランスをとって入っている。

当初、文科省内から、ことさらに教育内容の精選を強調し、基礎・基本の定着の軽視と受け取られかねないメッセージが出され、それが世間の新指導要領の理解を妨げ、国民の不安を招く結果となったことは前回述べた。

文科省は、国民の不安を払拭するため、強調され過ぎたプログレッシヴィズムのトーンを弱め、逆にあまり言及されなかったエッセンシャルイズムのトーンを強め、両者のバランスをとった形で、改めて新指導要領の趣旨を説明したのが、平成14年の「学びのすすめ」であり、平成15年の指導要領の一部改訂である、と私はみている。

(ひしむら・ゆきひこ = 国立教育政策研究所名誉所員)

本紙は<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>でも掲載

...本紙は、購読料不要です。配信の中止・FAX番号変更等の連絡は、抹消・登録に必要な宛先、新・旧FAX番号、等を必ずご明記くださるようお願いいたします。

●新刊案内●

緊急出版! 1月31日刊行予定 予約申込み受付中

教育開発研究所刊

文科省通知(12/26)に基づく改訂のポイントを徹底解説 / B5判 240頁・定価 2500円

『改訂学習指導要領 全文と要点解説』